

韓国

マクロ経済動向と展望

5月に発表された2004年第1四半期の経済成長率は、季節調整値で前期比0.8%の伸びにとどまり、前期の2.7%を大きく下回った。需要項目別に見ると、最終消費支出は0.2%と前期に続き低調であった。固定資本形成も0.6%とマイナスに転じた。このような内需不振の状況で、財・サービスの輸出も4.9%と前期の10.6%から伸び率が低下しており、成長率全体が低い伸びにとどまった。

足元の指標を見ても製造業生産指数は4月、5月と続けて二桁の伸びを示しているが、これを品目別に見ると半導体などの輸出向けの伸びが主体となっており、国内向けの消費財には力強さが感じられない。またサービスの生産も低調にとどまっている。今後の景気回復も外需次第という構図である。

政府系シンクタンクである産業研究院（KIET）は6月9日に「2004年下半年の国内経済及び産業見通し」を発表した。この予測では、韓国経済は上半期5.4%、下半期5.6%、通年で5.5%の成長を達成すると予測している。下半期には消費、設備投資も回復に向かうとみている。製造業の動向を部門別に見ると、下半期も自動車、家電、通信機器、コンピュータ、半導体など外需向け生産が大きく伸びるが、家電などの内需向けの伸びは引き続き低いレベルにとどまるとしている。

このように現状、予測とも内需の伸び悩みが、韓国経済の回復から力強さを削いでいることを示している。

大統領弾劾棄却と新内閣の発足

5月14日、憲法裁判所は国会の決議した盧武鉉大統領弾劾

劾訴追を棄却した。大統領にも法律違反はあったが、罷免に相当するほど重大とは認められないとの主旨である。この結果、大統領は2か月ぶりに職務に復帰し、行政の体制は正常化することとなった。

5月24日には大統領職務代行を務め、かねて盧大統領の職務復帰後の辞意を表明していた高建首相が辞職した。後任の首相には当初、米国で事業家として成功した経歴を持つ金赫珪前慶尚南道知事が有力視されていたが、6月5日に実施された地方選挙で、自らの後継候補が落選したため、首相指名を辞退することとなった。

こうした経緯を経て最終的に、ウリ党の李海瓚国会議員が6月29日に新首相として国会で承認された。李氏は当選5回のベテラン議員で、金大中政権の教育相などの経験もある。学生時代からの民主運動家であり、いわば党人派の政治家といえる。エリート官僚出身で政治的には中立的なイメージのあった高前首相とは大きく肌合いを異にしている。こうした党派色の強い首相人事が可能となったのも、与党ウリ党が総選挙で勝利した結果といえる。

また首相指名後に行われた内閣改造では、ウリ党の前議長として実質的に総選挙を指揮した鄭東泳氏が重要閣僚ポストである統一相に起用された。国民的な人気を持つ鄭氏にとって、南北問題を担当するポストで実績を残すことができれば、次期大統領候補¹の可能性も高まろう。

このように韓国の政治は総選挙と大統領弾劾の棄却を受けて、外形的には安定の条件を備えた。今後は所得分配の平等化などによって、国民の中に高まっている経済に対する不満をどのように解消していくのか、経済政策の選択が問われることとなる。

(ERINA調査研究部研究主任 中島朋義)

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	03年4-6月	7-9月	10-12月	04年1-3月	2004年3月	4月	5月
国内総生産 (%)	9.5	8.5	3.8	7.0	3.1	0.1	1.6	2.7	0.8	-	-	-
最終消費支出 (%)	9.7	7.1	4.9	7.6	0.5	0.6	0.4	0.2	0.2	-	-	-
固定資本形成 (%)	8.3	12.2	0.2	6.6	3.6	0.0	0.7	3.2	0.6	-	-	-
製造業生産指数 (%)	25.0	17.1	0.9	8.3	4.9	2.7	3.1	8.3	11.5	5.2	17.5	11.9
失業率 (%)	6.3	4.1	3.8	3.1	3.4	3.4	3.5	3.5	3.3	3.4	3.4	3.5
貿易収支 (百万USドル)	28,463	16,954	13,488	14,777	22,161	5,756	6,818	8,345	8,606	2,631	3,376	-
輸出 (百万USドル)	143,686	172,268	150,439	162,471	193,817	46,053	47,828	56,901	59,322	21,188	21,525	20,900
輸入 (百万USドル)	119,752	160,481	141,098	152,126	178,827	41,710	42,971	49,922	52,635	19,077	18,805	17,889
為替レート (ウォン/USドル)	1,190	1,131	1,291	1,251	1,192	1,209	1,175	1,181	1,172	1,166	1,151	1,177
生産者物価 (%)	2.1	2.0	0.5	0.3	2.2	1.3	1.9	2.6	4.2	4.4	5.5	6.3
消費者物価 (%)	0.8	2.3	4.1	2.7	3.6	3.3	3.2	3.5	3.2	3.1	3.3	3.3
株価指数 (1980.1.4 : 100)	807	734	573	757	680	621	726	782	863	876	907	799

(注) 製造業生産指数、生産者物価、消費者物価は前年同期比伸び率、国内総生産、最終消費支出、固定資本形成は前期比伸び率
国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、失業率は季節調整値
SNA統計、生産者物価、消費者物価は2000年基準
貿易収支はIMF方式、輸出入は通関ベース
(出所) 韓国銀行、国家統計庁他

¹ 韓国の大統領は任期5年で再選は認められておらず、盧武鉉現大統領は次期選挙には出馬できない。